

巻頭言
Greeting

× **田村 将**
Masashi Tamura
聖書神学舎 教師
(朝霞聖書教会 牧師)

Profile

1980年京都府生まれ。聖書神学舎50期卒業。日本同盟基督教団 中野教会で3年間牧会後、世田谷中央教会に教師籍を移し北米へ留学。帰国後2017年から朝霞聖書教会で牧会。神学舎では2017年より講師・教師。主に旧約学を担当。



「神のことばを委ねられる特権」

「彼らは神のことばを委ねられました。」

ローマ3章2節

これはパウロがユダヤ人の特権について述べている箇所です。神が直接語りかけてくださること。それこそが神の民イスラエルの「すぐれている点(ロマ3:1)」でした。この特権はまた、純正種のオリーブの木に「接ぎ木」された私たち異邦人キリスト者にも与えられていると言えるのではないのでしょうか。神はご自身のことばをキリスト者に委ねてくださいました。それは特権であるとともに重い責任でもあります。どこまでもみことばに聞き続けること。そのような使命を負っていると自覚します。そしてこのためにこそ、学舎での奉仕があるのだと示されています。

それにしても、「主のことばを聞くことの飢饉(アモ8:11)」に見舞われるような時代に生きているということを益々実感させられる昨今です。人々が神のことばよりも、優れた説教者や神学者のことばに聞き、実際には神のことばである聖書そのものに聞いていないという事態があるように思うのです。どこまでも神の細い御声に聞こうとする、そのような努力を怠って、既にそこにある解説や解釈にすぐに飛び付いてしまうというようなことが多いのではないかと、自らのことも含め危惧させられています。確かに、みことばに聞こうすることは骨の折れる、忍耐のいる営みです。ある場合には(特に時間に追われている時などは)さじを投げてしまいそうになります。しかし、その度に思い出すのが旧約釈義の授業で教えられた次のことばです。「テキストをよく調べ、よく学

ぶならば、必ずメッセージは生まれてくる。だからテキストに向かうこと。初めは硬い岩のようであっても、学ぶにつれて崩れてくる。それ以外にメッセージは生まれてこない。」このことばに幾度となく励まされ、その都度みことばの奉仕に向かわされて来たことを思い起こします。そして今は、その姿勢を教える立場に置かれていることを、恐れおののきつつ受け止めています。

けれどもしばしば誰か偉い先生(権威)に頼りたいという誘惑に駆られることがあります。謙虚に学ぶ姿勢は大切ですが、それが依存になってしまってはならないと考えます。舟喜順一師は、神のことばである聖書はすべての人に開かれているのであり、「特定の教師、指導者のみを通して…霊的な祝福が豊かに与えられるので、それらに頼るという心情のあり方」は、聖書を正當に扱っていないことを示している可能性があるかと警鐘を鳴らしています(聖書神学舎編『聖書と聖書信仰』p.8)。類似する何かにはではなく、あくまでもみことばそのものに信頼し聞き続ける者でなければならない。そのための学舎でありそこでの訓練であると自戒させられています。

No.191 Topics

- p03 研修生の証し
- p04 卒業生の働き場から
- p06 岳藤照子先生を憶えて
- p07 教会音楽専攻委員会から

赤坂 泉

Izumi Akasaka
聖書宣教会 校長

キリストは肉において現れ、
霊において義とされ、
御使いたちに見られ、
諸国の民の間で宣べ伝えられ、
世界中で信じられ、
栄光のうちに上げられた。

1テモテ 3:16

ただキリストにあつて

キリストにある救いの恵みを感謝し、主の御名を賛美します。福音の宣教が力強く前進し、神の国が広げられることを切望し、主の民に助けを、世界に主のあわれみを祈ります。

聖書神学舎は1958年の創立当初から、教会のわざとして、全面的に主と主の教会に支えられて歩んで来ました。新型コロナとの3年を越える闘いにおいても然り。祈って、献げて、支えてくださっている諸教会のわざが、羽村のこの地で進んでいます。11月の二つの行事のあかしを別頁をご覧ください。同月、岳藤照子先生が天に召され、冬は同窓生の訃報も続きました。地にある私たちも、主の時を見据えて、今を大切に歩みたいと思います。

キリストを宣べ伝えるために

キリストの福音に仕えるしもべたちを、主ご自身が召してくださることを感謝します。今年度は5名の兄姉が卒業予定で、伝道者として各地に遣わされて行きます。入会するのは5名で、本科に3名、聖書科・聖書専攻に2名が加えられます。全体で16名という史上最低規模には変わりありません。全寮制の学びと訓練を大切に、神学教育を続けます。

これまでに600人以上の卒業生が、日本と世界に福音を満たすために遣わされました。さらに大勢の献身者が起こされるように、そして、この学舎で、福音をさらに豊かに理解して宣教する主の器たちとして整えられるように、共に祈ってまいりましょう。

少し個人的なことになりますが、第7回日本伝道会議に関わる奉仕の中で、同労者の交わりに恵まれ、祝されています。背景も使命も多様な伝道者たちが、福音宣教のために心を合わせ、補い合って共に労する喜びです。卒業生たちにも、同窓の交わりも大切にしつつ、それを越えて豊かな協働を備えられ、あるいは創り出して、一層よく福音に仕える喜びを追求してくださることを祈ります。

主に卒業生を対象にしたオンラインの継続教育、牧会者と配偶者のための夏期研修講座、また教会音楽夏期講習会などの働きも続きます。8頁また学舎のウェブサイトをご覧ください。

聖書学研究所の働きも3年になります。論文執筆中の会員、準会員の先生たちの、聖書学における貢献も主に期待するものです。

終わりの日を見据えて

キリストの民は、世界を覆う闇の現実から目を背けず、今を生きます。主を愛し、具体的に隣人を愛する歩みを大切にしたいと思います。主を知ることが、海をおおう水のように地に満ちる日を切望して、終末を見据えたライフスタイルを整えましょう。



祈りの日の恵み

入月かおる

Kaoru Irizuki

聖書神学舎 聖書科2年

多くの課題と向き合いつつ学びと研修生活を送っている私たちが、年2回、朝から一日中神様との交わりに浸れる日、それが「祈りの日」です。午前中はそれぞれのスタイルで個人祈祷、そしてチャペル礼拝の時を持ち、さらに午後の祈りへと導かれて行きます。私は個人祈祷の時は、聖霊様の導きの中で半年間の出来事とその時々自分の心を振り返るようにしています。その中で、わからなかったことが見えてきたり、時には悔い改めに導かれたり、自分の必要や他の方の必要に気付かされたり、神様の見えざる御手に導かれてきたことを教えられます。神様の憐れみと恵みに感謝しつつ、見えてきた課題を主の手に委ねて祈ります。

また、今回(11/18)のチャペルにはベック先生がお

いでくださり、創世記17章8～16節より、信仰の歩みには戦いがあり、とりなしの祈りがなければ信仰の戦いは戦えないこと、何よりも、イエス様がとりなしてくださいから、不可能なことが可能になることを力強く語っていただきました。3つの教会を開拓して、30年近く地道に教会形成をされてきた先生の言葉。「私に教える力はありません。福音の中に力があるのです。それを語っていくとき、福音に応答する方が必ず起こされます。」「その福音は今も私に必要であり、毎日自分に福音を語り続けていくことが大切です。」「自分は上に立つのではない、自分は罪人です。」こう言い切る謙遜な器の一言一言に、心を響かせた祈りの日でありました。主の御名を崇めます。

みことばを賛美する恵み

林 哉希

Im Jae Hee

聖書神学舎 聖書科1年

11月26日土曜日、天候も守られ、来会して下さる方々を3年ぶりにお迎えして賛美礼拝をおささげしました。

9月からほぼ毎週木曜日の午後、全学年の研修生が集まり、備えの時間を持ちました。練習を重ねていくうちに「みことばの賛美」は私たちの信仰告白となっているのを感じるようになりました。「みことばの賛美」には真理のみことばが、宣言や告白、祈りとして五線譜にのせられていました。指導して下さる先生を通して、音の長さや高さ、強さなどによってみことばの意味がより明確に、又は繊細に伝わることを知り、「みことばの賛美」の豊かさと奥深さをほんの少し体験させていただきました。

また、練習を重ねていくうちに、四つのパートは一つ

の旋律として調和されていきました。「み言葉への信頼、交わりの中にしっかりと位置を占めること、全き謙遜と厳しい訓練—これらがすべて、共に歌うことの前提である。』『共に生きる生活』の中で、共に歌うことに関して言及したボンヘッフアーの言葉が思い出され、その通りだと思いました。

賛美礼拝の当日は何人かの先生方もいっしょに合唱し、一つとなってささげる賛美の中には国籍も年齢も性別もありませんでした。三位一体の神様がおられ、ささげられる賛美を通して栄光を受け取ってくださったことに感謝を申し上げました。

これからも、この羽村から日本各地に賛美の声が強くと届けられることを期待し祈ります。



喜びの受洗式



日本人コミュニティのためのクリスマスカフェ

海外邦人宣教の今

清水 勝俊

Katsutoshi Shimizu

南ロンドン日本語キリスト教会牧師
栄聖書教会派遣宣教師

私は宣教師としてロンドンに遣わされ、主に邦人教会を牧会しながら当地の日本人伝道・宣教に携わっています。海外邦人教会という、かつては企業からの駐在員や留学生が中心でしたが、ここ数年、特にコロナ以降、大きく変わってきており、現在、私たちの教会の中心となっているのは、国際結婚などの様々な理由で当地に来られ永住しているご家族です。企業や母国からの援助なく、言語や文化の違うこの地で日本人として、特に信仰者として生活していくことには、当事者にしかわからない多くの複雑な背景や事情があります。そんな中でみな主を見上げ、日々の活力を得たいと教会に集っています。

みな困難とチャレンジがあり、救いを必要としている中で、主によって人生が回復していくのを見る時、この働きの重要性を覚えます。多くの願いがありますが、一つは家族みな主への信仰を同じくして歩む人生の祝福です。そのためには教会もバイリンガル礼拝や説教の英語訳表示、英語グループの形成や子どもも一緒にファミリー礼拝など、工夫をしています。すべての言語の民族が一つとされて献げる天上の礼拝に思いを馳せつつ、私たちに与えられた今の時代の教会をみなで祈り求めています。

こうして働いていると世界の広さも感じます。そしてそこに働いておられる神の働きを感じます。海外では

超教派的要素も受け入れない限りは一步も宣教の働きの進まないという現実もあります。人々のニーズは深く切実で、期待と要求水準は極めて高いものです。何が本質かを問い詰め、みこころを見出し、日々答えを出して、キリストにあって一致する他ありません。思わされるのは、牧師はどこまでも謙虚に神に仕え、人に仕える者だということです。学んだそのままをこれがみこころだと上から言っても何も始まりません。すべてを受け入れ、身を献げて、その上で人々の心が少しでも御父に向くよう尽くされた主のおこころを思います。そして思わされるのは、結局みことばによってみな養われ成長していく他ないということです。

コロナ以降、実感するのは、海外の邦人教会(これは日本も世界中の教会も同じかも知れませんが)は真の信仰者が集い、真の神を礼拝する教会でしか生き残れないということです。しかし、真の信仰者が集い、真の礼拝が献げられるならば、たとえ小さくても、主が伴ってくださり、主の働きが続けられるでしょう。戦争が起こり、英国では国王も変わり、時代は移り行くことを覚えます。永遠から永遠まで変わらぬ主を見上げ、召された働きに励みたいと願っています。

「草はしおれ、花は散る。しかし、私たちの神のことは永遠に立つ。」

(イザヤ40：8)

接続詞とその他のこと

横山 昌英
Masahide Yokoyama
聖書神学舎 教師

接続詞は、語句と語句、節と節を結びつける品詞です。特に後者においては、前節と後節がいかなる関係にあるのかを示すという大切な役割を担います。その重要性にもかかわらず、ギリシャ語初級の授業では主な接続詞の紹介にとどまり、中級では名詞の格や動詞の時制や法の用法を優先するため、後は各自の学びに委ねざるを得ません。

「ラザロの復活」(ヨハ 11 章)を学んでいた時、6節冒頭の「しかし」に目が留まりました。第三版では「そのようなわけで」となっていました。いずれも等位接続詞(または副詞)ウーン(oun)の訳です。

ウーンについて、リデル-スコットの大辞典は、①不確かなものとの対照で「実際、確かに」、②談話の継続「さて、ところで」、③推断の「それで、それゆえ」等を提示し、「しかし」の用例は一切挙げていません。近年の Cambridge や Brill 社の大辞書も同様です。

パウアーの辞書(BDAG)が、上記に加え反意の用法を提案し、該当する聖書箇所を挙げています(ヨハ 9:18、使 23:21、25:4、28:5、ロマ 10:14、※筆者註:ヨハ 11:6 は挙げていない)。私見ではこれら5例中、排他的に「しかし」と訳せる箇所は一つもなく、上記②③の可能性を残しています。

「イエスは…ラザロを愛しておられた」(5節)と、「…ラザロが病んでいると聞いてからも、その…場所に二日とどまられた」(6節)。この両者を結ぶ接続詞は、「しかし」が「自然」です。この点で、新改訳は円滑に読める訳を提供してくれまし

た。しかし、原語はあくまでウーンなのです。

ウーンの使用については、新約 501 回のうち 194 回(約4割)をヨハネの福音書が占めています。一方、著者ヨハネは反意接続詞を知っています。にもかかわらず、ヨハネが当該箇所ではあえてウーンを用いた点を重んじるべきでしょう。

ウーンの基本的な訳「そのようなわけで(それゆえ)」の場合、イエスの愛と、直ちに駆けつけたいこととの繋がりは確かに「不自然」です。しかしこの訳文で主の愛を思い巡らしていくなら、「しかし」とはおおよそ異なる理解へと導かれます。人間の要求に直ちに応えるだけが神の愛ではない。愛するがゆえにあえて応えない(ように見える)場合もある。困難な中でも主の愛を信じて疑わないという信仰姿勢に、訳文が寄与する一例だと思えます。

上記のパウアーが提示している反意用法ですが、この項目は英訳者が付加したもので、原書(ドイツ語)にはありません。聖書以外の用例も一つしか挙げていません。したがって、そこで提示されている意味を採用するには慎重さが求められます。

聖書を学ぶ者にとって、辞書を始めとする参考資料が年毎に充実しているのは喜ばしいことですが、そうした資料もあくまで人間のわざです。資料を適切に用いながらも、何よりも主を恐れ、提示されている聖書本文それ自体をどこまでも重んじて、ご聖霊の導きを頼りにみことばに向かうという基本の大切さを改めて考えました。

岳藤照子先生を憶えて

照子先生のこと

須田 栄子

Eiko Suda

長津田キリスト教会 教会音楽主事

「一人の献身者として」照子先生は、聖書神学舎で学び、その後ドイツで教会音楽を学ばれました。家庭礼拝で用いられていた小さなオルガンに触れたことから音楽との出会いが始まり、後にその賜物を用いて主のために働きたいとの思いが与えられたとのことでした。しかし、牧師の助言を受けてまず神学を学ぶことを選び、その先の道が導かれました。留学中、当時の岳藤豪希神学生と結婚に導かれました。

そこからは、「献身者のパートナーとして」主に仕えることとなりました。私は研修生時代には「豪希先生がおられての照子先生」という印象が強かったのですが、思い返してみると「照子先生がおられての豪希先生」であった数々のエピソードを思い出しました。

誰よりも豪希先生の働きを理解し、支えることが出来たのは照子先生であり、豪希先生も照子先生の賜物が豊かに用いられるように願い、奉仕の場に送り出し、サポートされたのだと思います。また、お二人とも与えられている確かな主の導きにまっすぐに従ったからこそ、そのために必要な一つ一つが備えられたのだと思います。

今思えば教え子達にそのパートナーシップを体現して下さっていたのだと感じます。「教育者として」学びに必要なこと以外は多くを語らず、危なっかしい私のような教え子にも温かいほほえみをもって見守って下さいました。

照子先生を通して主が教えて下さった事を大切に歩みたいと思います。

温かい心で支えてくださった照子先生

矢吹 綾子

Ayako Yabuki

聖書神学舎 教師

「召命が同じだったのよね。」照子先生に結婚の導きについてお伺いした時のお返事でした。照子先生は、聖書神学舎(本科)を卒業後、教会音楽を学ぶためにドイツに留学され、岳藤豪希先生との結婚へと導かれ、みことばを土台にした賛美を、また、音楽を用いて福音を宣教するという教会音楽の理念を日本の教会に伝え、教えるために、豪希先生とともに労して下さいました。

私が学舎の入会式で初めて照子先生に会った時の印象は、「なんて素敵な先生なのだろう」というものでした。その第一印象はずっと変わることなく、いつも笑顔で、学生の良いところを褒めて励まして下さる先生でした。

私が学んでいた頃は、岳藤先生のご自宅を教会音楽科の教室として使っていました。ある日、卒業演奏会の準備を同級生としていた所に「遅くまで大変ね、頑張ってるね」と言いながら、照子先生がお手製の野菜スープを差し入れて下さいました。美味しいスープに、体だけでなく、心も温かくされ、大きな励みとなったことを今でもよく思い出します。

また、私がエヴァンゲリウム・カントライのドイツ演奏旅行でオルガン伴奏させていただいた時、オルガンは合唱団が位置する会堂前方とは反対側の2階にあってみんなと離れた場所で伴奏することが多かったのですが、いつも照子先生が譜めくりをするために傍らにいて下さったので、心強く、安心して奉仕をすることができたのを覚えています。

照子先生の母校である聖書神学舎に教会音楽を学ぶコースが設立されたことは、神様のご計画であると確信し、継承し続けることを願い、努力し、祈ってまいります。

証し

福井 純子

Sumiko Fukui

玉川キリスト教会 教会音楽主事

3.11の震災があって後、私は自分の「生きる」ことを見直し、なすべきなのにしてなかったことがないか探しました。ある時、家の整理をしていて古いカセットテープに目が留まりました。20年前の聖書宣教会の教会音楽夏期講習会の講義テープでした。後で聞こうと思ってずっと忘れていたのです。

その中で岳藤豪希先生が「バッハの音楽を勉強したいと思う人はこの図書室に資料がありますから来なさい」という内容のことをおっしゃいました。それは私に対して語られたかのように思いました。様々な導きがあり、ちょうど3年後の2014年に聴講生としての学びが許されました。研修生と一緒に図書室を利用できることが嬉しく思いました。その時は、まさか自分がさらに3年後に教会音楽のコースで入会することになるとは思ってもみませんでした。

私はすでに教会で教会音楽の奉仕に携わっていましたが、いつも足りなさを覚えました。教会音楽の基盤であるみことばの深い学びが必要であ

り、整えられる必要を感じました。家族と教会の犠牲と祈りの内に、2017年に入会が許されました。研修生活が始まるや否や、すぐに壁にぶつかりました。語学は大の苦手でした。途方に暮れる中、ある先生の「聖書は耳で聞くもの」との言葉を思い出し、電車の行き帰りにひたすらヘブル語の詩篇朗読を聞きました。何度も繰り返し出てくる力強い響きの言葉が気になりました。その単語は「デレク=道」でした。その頃からヘブル語の学びが楽しいと思えるようになりました。主が私に道を備えてくださることを知りました。その後何をどうやってというのはいわかりません。目の前の道を進むことが主にお従いすることなのだと思い、ただひたすら研修生活を過ごしました。

その道は卒業した後の今もこれからも続きます。主にお会いする日まで。

「主よ あなたの道を私に知らせ
あなたの進む道を私に教えてください。」

詩篇 25 篇 4 節

聖書神学舎における教会音楽教育の今

1972年にドイツから帰国した岳藤豪希師が始められた「教会音楽指導者養成講座」を前身とし、1980年に「教会音楽科」として聖書神学舎での教会音楽教育が本格的にスタートしました。1993年からは「教会音楽舎」となり、「聖書神学舎」と並ぶ教育機関として、音楽の賜物を用いて主と主の教会に仕える働き人の育成のために用いられてきました。一旦その働きを終了し、2003年に「聖書神学舎・教会音楽科」として聖書神学舎の働きの一環と位置づけられるに至り、聖書科目に従来よりも重点が置かれるようになりました。2010年度より「聖書神学舎・聖書科教会音楽専攻」となり現在に至るカリキュラムでは、学ぶべき聖書科目はさらに増えています。発足当初より一貫して提唱し、目指してきた「みことばに仕え、みことばを伝える音楽」という理念の実践と発信のために、これまでもこれからも、最善のあり方を祈り求め続けています。

2023 年度 講座案内 2023 Courses and Schedule

2023年度は次のようなプログラム、講座を予定しています。各講座の詳細は、別紙案内やウェブサイトをご覧ください。このほかに聴講制度があります(詳細は事務局まで)。

拡大教育・継続教育

以下を予定しています。いずれも詳細は、時期が近づきましたらウェブサイトでご案内します。

拡大教育

- 聖書塾 聖書の基礎的な学びの機会。9-11月に1講座(5回)を2つ開催。東京都内、対面で。
- 公開講座 聖書に親しみ読む喜びを共有する機会。3月の土曜に首都圏の教会、対面とオンラインで。
- 教会合唱講座 宗教改革時代から今日まで歌い継がれてきた賛美を学ぶ機会(今年度はコロナ対応で中止)

継続教育

旧約・新約釈義 2-3月の平日夜120分を4回、オンラインで。原則として聖書神学舎卒業・修了生対象。

第47回 夏期研修講座

詳しくはウェブサイトをご覧ください。

「今、救済論を考える」

- 期間 : 7月 3日(月)～ 5日(水)
- 会場 : 奥多摩福音の家
- 対象 : 牧会者、牧会者の配偶者
- 講師 : 聖書神学舎教師

第38回 教会音楽夏期講習会

詳しくはウェブサイトをご覧ください。

「みことばと音楽」

朗読とコラールによるヨハネ受難曲

- 期間: 7月26日(水)～ 28日(金)
- 会場: 聖書宣教会
- 対象: 聖歌隊員、聖歌隊指導者、奏楽者、独唱者等、礼拝や教会の諸集会で音楽の奉仕に携わっている方、および奉仕の準備をしたい方。教職者・信徒の方も参加できます。
- 講師: 聖書神学舎教師・講師ほか

2023 年度 主要年間予定 2023 School Year

2023

4月 4日(火)	入会式	10月26日(木)	後期授業開始
4月 7日(金)	前期授業開始	11月 4日(土)	オープンデー
5月18日(木)	祈りの日	11月15日(水)	祈りの日
6月 6日(火)～6月 7日(水)	特別講義	11月25日(土)	賛美礼拝
6月24日(土)～6月30日(金)	集中講義	12月16日(土)～1月 4日(木)	クリスマス調整期間
7月 1日(土)～8月29日(火)	夏期調整期間		
7月 3日(月)～7月 5日(水)	夏期研修講座		
7月中旬～	キャラバン伝道	2024	
7月26日(水)～7月28日(金)	教会音楽夏期講習会	1月 5日(金)	後期授業再開
9月 1日(金)	前期授業再開	2月 5日(月)	入会試験
10月13日(金)	前期授業終了	2月11日(日)	信教の自由を守る日
10月14日(土)～10月25日(水)	秋期調整期間	3月 6日(水)	後期授業終了
10月24日(火)～10月25日(水)	リトリート	3月 7日(木)	卒論発表会
		3月11日(月)	第65回卒業式